

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第1895号 2018年11月11日

日本共産党 根室市議団
根室市宝林町4-203 TEL23-6023

2018年11月6日

根室市議会総務常任委員会(壺田委員長)は、瑠瑠自主防災組織連合会(約145世帯)が主催する「合同津波避難訓練」の様子を見学しました。

同時に根室高校の防災棟、また友知や浜松地区の急傾斜地など課題となっている個所の視察を行いました。

瑠瑠で初の合同 津波避難訓練を見学

瑠瑠第一町会から第四町会までが合同で実施する避難訓練は初めてのことです。朝9時の防災行政無線のサイレンを合図に、津波を避けるために一斉に高台となった。約2か所の避難場所をめざして車で避難を開始します。



避難場所は根室市が設置した青い大きな「防災コンテナ」がおかれている広場です。この場所は草が伸びており「ちゃんと車が入れるのか?」という住民の方からの意見も事前にあったそうです(実は年2回ほど市が草刈りしていますが、再び伸びてきたので、この日は事前に市の方で草刈りしたとのことです)。

9時になると防災無線のサイレンが、「あれ、鳴らない?」4分ほど遅れて避難訓練開始のサイレンが鳴り響きます。それから程なくして、ぞくぞくと避難する車が集まってきました。

今回見学した側の避難場所には、約50台ほどの車が集合しました。この場所はもっと多くの車が停められるとは思いますが、その後の防災講座で市の担当者の説明では、災害時には車を停める際に「奥から順番に停める」等の一定のルールを事前に確認しておくことが重要と指摘していました。



防災コンテナは市内の各避難場所に計7基設置されています(今年中にもう一基を追加)。小型の発電機、投光器、アルミブランケット、カイロなどが備蓄されています。実は私たちもそうですが、多くの地域住民の方もはじめてコンテナの中身を見ました。「アレ?これだけしかないの。大丈夫?」というのがみなさんの正直な感想だったように思います。

避難場所という性質上、海沿いの道が遮断された場合には丸1日程度をこの場所で(主に車の中で)過ごすことも想定していると思います。

水や食料など必要な非常用持出品は自分で準備することが原則とはいえ、その時にそれらを持って避難できる人ばかりではないでしょう(そもそも災害発生時に家にいるとは限りません)。車の中にあらかじめ防災グッズを準備しておくことも重要」と市担当者は説明します。

今回の避難訓練では2か所の避難場所にあわせて76世帯ほどが参加していたとされています。シミュレーションによる津波第一波到達予測は約24分。今回の避難訓練でサイレンから避難場所まで皆さんが避難完了した時間はそれぞれ約15分と約18分とのことでした。はじめてとしては良い成績だったのではないのでしょうか。

半島の道路沿いはかなりの部分が浸水域となっており、避難している最中に津波におそわれる危険性もあります。

また、とても歩いて避難できるような距離ではないため車の移動になりますが、災害時に今回のようにスムーズな避難ができるのかどうか。実際には車がどのように渋滞するのか、電柱などの倒壊で避難場所までの道路が通行止めになったらどうするのか、まだ課題はたくさんあると思います。

これからもこのような避難訓練を繰り返しながら、その経験をもとに、今後市行政として地域とともにどのような防災・減災対策をすすめていくのか、しっかりと考えていく必要があることを、我々としても認識を新たにすることがあります。



「市民の声・ちまたのニュース」は、
11月25日に発行です。
お楽しみに!